

佐原祭礼の変遷と周辺の都市祭礼

飯塚好

Changes in Festivals in Sawara and Urban Festivals in the Surrounding Area

はじめに

- ①諏訪神社の祭礼
- ②八坂神社の祭礼
- ③祭礼の展開
- ④明治以降の展開
- ⑤周辺の都市祭礼との比較
おわりに

【編文解説】

千葉県の佐原は江戸時代から栄えた都市であり、この佐原で行われてきた八坂神社の夏祭りと諏訪神社の秋祭りを取り上げ、佐原祭礼の変遷について考察を行い、統一して周辺の都市祭礼との比較を行った。都市祭礼のシンボルといつてよいものが、時代を反映した御神幸における出し（山車）や練り物であり、山車や練り物に焦点を当てる。

まず、諏訪神社と八坂神社の祭礼の全体像を見ておき、その上に、山車や練り物が出る祭礼の状況をみるとした。
諏訪神社の祭礼では、享保年間から山車とも考えられる家台と練り物が、御神幸にみられ、にぎやかな祭礼が継続的に行われた。八坂神社の祭礼では、神輿の御神幸に三役といわれる獅子、猿田彦、神楽が加わっていた。そして、明和年間に出しが出るようになり、諏訪神社と同様にぎやかな祭礼に変化した。その後、嘉永年間になると

と、現在と同様な、山車に水引を廻し、人形などをのせたものになつたと考えられる。

江戸時代の祭礼では、山車や練り物が出ないで、神輿だけの御神幸が多かつたことともわかるし、家台を出すのを差し止められているにも関わらず、家台を出し、お咎めをうけ、御神幸に神輿だけしか出せなかつたこともわかる。

明治以降でも、山車が出る祭礼は毎年行われるといふことはないし、また、明治時代末に市街地に電線が張り巡らされ、山車の運行が危ぶまれたが、山車の構造に工夫を凝らし、それを切り抜けたといふことが興味深い点である。

最後に、佐原祭礼と周辺の都市祭礼との比較を行い、佐原祭礼の位置づけを行つた。